

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ①グリーン分野(3/6)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
あわじ環境未来島特区 (兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市)	4.6	4.2 <u>進捗度</u> ・エネルギー(電力)自給率 107% ・二酸化炭素排出量 118% ・再生可能エネルギー創出量 100% ・竹燃料の消費量 19% ・新規就農者数 78% ・再生利用が可能な荒廃農地面積 110% 等	4.4 <u>規制の特例等</u> ・太陽光発電施設の系統連係に係る迅速な手続の明文化 等 <u>地域独自の取組</u> ・住宅用太陽光発電システム設置費補助金 ・定住促進事業 等	4.8	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の取組に対して丹念に施策の工夫がおこなわれており、エネルギー面では特筆すべき成果が挙げられている。 ・洋上風力モデル事業やうちエコ診断の普及など、各種施策を上手く組み合わせた取組となっており、行政のエネルギー施策のモデルとして高く評価できる。 ・農業や人口増大に関する取り組みは成果としてはそれほど顕著では無いものの、着実な努力が見受けられる。 ・荒廃農地の活用、一戸当たりの農業生産額、交流人口の確保等について、具体的な取組と目標達成が困難な中での対応のご苦勞等について説明を期待する。 ・総合評価にも示されているように、竹燃料の安定した利用を図るために、一定規模の需要を複数拡大することが課題と考えられる。 ・新型コロナウイルスの感染拡大で農業販売高、交流人口等に影響が出ることが予想されるが、情報技術等を活用した取組を積極的に進めるなど、他地域のモデルとなる新たな展開を期待する。 ・SDGsの推進のためには人口増による地域活性化、エネルギー、農業の融合的な組み合わせは今後の重要な課題であり、両者の取組を融合していくことができないか検討が望まれる。